

Preview

## Jennifer Lee 陶展

【会期】 10月16日(金)~11月8日(日)  
【会場】 現代美術 舳居  
京都市東山区元町381-2  
☎075 (746) 4456



「白い鉢(二筋の斑点の輪)」2015年 W18.2×D18.2×H11.1cm



「白いバネル(オリーブ色の花崗岩質の跡)」2015年  
W43.0×D11.0×H31.5cm



「斑点のオリーブ色の壺(花崗岩質の閃光)」2015年 W11.0×D11.0×H16.1cm

ジェニファー・リーは1956年にスコットランドで生まれた。75年にエジンバラ・カレッジ・オブ・アートに入学し、轆轤や楽焼など陶芸を学んだ後、アメリカの先住民が先史時代に製作したやきものの研究や、縄文土器を含む古代の土器についても研究した。

ヴァクトリア&アルバート美術館に作品2点が収蔵された85年頃から、イギリス国内で陶芸家としての評価が高まった。93年にはスウェーデンのロスカ美術館で回顧展が開催され、国際的にも知られる存在となっていた。日本で紹介されたのは94年以降で、2009年にはイッセイ・ミヤケのディ

レクションによりルーシー・リーやアーネスト・ガンペールなどとの3人展を東京で開催している。

世界各国を旅して目にした風景や人々の出会いが、彼女のフィルターを通じて次第に堆積し、やがて作品へと昇華されていく。そのイメージは、我々の生活がもつ大地と密接な関係性の中で営まれていた頃の記憶を刺激し、感動を共有させる力を持つ。

京都初の個展となる今展では、信楽の陶芸の森で滞在制作した新シリーズの陶板や、代表作のオブジェを含む約15点を展観する。ジェニファー・リーがたどった軌跡とその感動を作品を通して共有したい。(編集部)